

全国こども政策主管課長会議

令和6年3月

こども家庭庁長官官房総務課
こどもまんなかアクションチーム

《 目 次 》

I . こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革について

1. 事業の目的について 3
2. 「こどもまんなかアクション」の展開について 4
3. こどもまんなか応援サポーター概要 5
4. 「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムの開催 9

令和5年度補正予算額 6.1億円
 （うちデジタル庁一括計上予算：0.7億円）
 令和6年度当初予算案 0.9億円（2.3億円）

1 事業の目的

- 「こども未来戦略方針」（令和5年6月13日閣議決定）を踏まえ、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々などを応援するといった社会全体の意識改革を進める必要がある。
- この意識改革のための取組として、「こどもまんなかアクション」を展開するとともに、国民のニーズを踏まえた施策を進めるための戦略的広報等を実施する。

2 事業の概要・スキーム

※(1)(3)(4)は令和5年度補正予算により前倒し実施

(1) こどもまんなかアクションの推進

地方自治体、企業、個人などによる「こどもまんなか応援サポーター」の自主的な取組を推進するため、メディア、SNS、イベント・シンポジウムを通じて情報発信を実施する。

(2) 子育て世帯を優しく包み込む社会的機運の醸成のための情報発信

Z世代主体のプロジェクトチームによる情報発信等を実施する。

(3) 若者団体に関する調査研究

「こどもまんなか社会」の実現に向け、若者が主体的に活動して社会に参画する団体についての国内外での取組事例等に関する調査研究を実施する。

(4) こどもの意見聴取のためのこども家庭庁HP機能向上

こども向けWEBサイトについて、「こども若者★いけんぷらす」メンバー等へのわかりやすい情報発信や参加機会を拡充するための機能向上を行う。



3 実施主体等

国（民間事業者等へ委託）

「こどもまんなかアクション」の展開

1. 趣旨

こどもや子育て中の方々が気兼ねなく様々な制度やサービスを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、全ての人がこどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革を進める。

2. これまでの取組と今後のスケジュール

5月2日 「こどもまんなか応援サポーター」取組の発表

・「こどもまんなか」に向けた自発的なアクションと「#こどもまんなかやってみた」を付けてSNS等で発信するよう

企業・個人・自治体などに広く呼びかけ。

令和5年7月22日 「こどもまんなかアクション」キックオフイベントの開催 「こどもまんなかアクション」の本格始動を宣言

8月8日 「こどもまんなかアクション公式LINE」の開設 お友だち1万人超

9月29日 「こどもまんなか応援サポーター」の好事例の発信開始

10月30日 リレーシンポジウム各地で開催スタート 令和6年3月までに全国10か所で実施

(和歌山、神奈川、奈義町、埼玉、北九州、北海道、愛媛、福山市、大分、福井)

11月 「秋のこどもまんなか月間」、「ニーズ調査結果」公表、「こどもまんなかアワード」発表

「こどもまんなか応援サポーター」とのアクション連携

令和6年1月～3月 子育てメディアでのタイアップ記事公開。

R6年度に向けて、リレーシンポジウムなど各自治体に開催希望の照会。

サポーター企業・団体との取組連携、調整中。

5月 「春のこどもまんなか月間」の実施

32道府県はじめ241自治体、770の団体・企業・個人がこどもまんなか応援サポーター参加。 ※令和6年1月現在

こどもまんなか応援サポーター概要

【こどもまんなかの趣旨に賛同し、自らもアクションに取り組んでいただける個人、団体、企業、自治体などを「こどもまんなか応援サポーター」と呼んでいます】

1 こどもまんなかの趣旨に賛同する。

こどもまんなか社会実現に向けて、賛同した方・団体メンバーご自身がこども若者に対して何ができるのかを考えるきっかけづくり。

「こどもまんなか」

こどもや若者の意見を聴き、その意見を尊重し、こどもや若者にとってよいことは何かを考え、自分ができるアクションを実践していきます。どんなこどものことも考えていきます。

2 サポーターご自身が考える「こどもまんなか」なアクションを実行する。

こども・若者に意見を聴き尊重した上で何ができるか、の答えはさまざま、正解はありません。それぞれにできる、こどもまんなかに向けたアクションをぜひお願いします。

※ アクション例

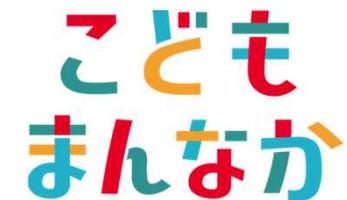
- ・「こどもかいぎを開いて、こども・若者の意見をきいて〇〇に反映してみた」
- ・「こども食堂を手伝っている」 ・「電車の乗り降りで、ベビーカーを優先する」
- ・「トイレの行列など、子連れに順番譲っている」 ・「荷物を持ってるお子さん連れに、ドアあけてあげる」

3 ご自身・団体のアクションを発信したり、地域社会に広く参加を呼びかける。

SNS(Twitter、Instagram等) やYouTube上でそれぞれのアクションを #こどもまんなかやってみた をつけて発表。積極的な発信とアクションのご協力をお願いいたします。

こども家庭庁はリツイートやホームページでのご紹介等で拡散とみなさまのアクションの見える化を行います。

- ※ みなさんに使っていただける「こどもまんなかマーク」を投票により決定。ホームページから登録いただくことによりご活用いただけます。

The logo for 'こどもまんなか' (Kodomo Mannaka) is displayed in a rounded rectangular frame. The characters are colorful: 'こ' (ko) is blue, 'ど' (do) is orange, 'も' (mo) is red, 'ま' (ma) is green, 'ん' (nn) is blue, and 'な' (na) is red. The character 'か' (ka) is also red.

広がっています！ こどもまんなか応援サポーター

32道府県 206市区町村 企業・団体749 個人参加126 に拡大中 ※1月現在

熊本県とくまモン



埼玉県



水戸市



ファミリーマート



伊藤忠商事



第3の場所 いましば



南九州大学



日本航空



みずほ銀行



Jリーグ



自治体のみなさま、団体のみなさま、企業のみなさま、みなさまの取組やアクションを全国でつなげていき、「こどもまんなか」をひろげていきましょう。 #こどもまんなかやってみた

こどもまんなか応援サポーターの取組好事例を庁のホームページやアクション公式LINEで紹介。参加の輪を広げる。

LINE配信イメージ

ホームページ掲載例



<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-mannaka/case/>

こどもまんなかアクション取組事例のご紹介

こどもまんなか応援サポーターのみなさんから寄せいただいた取組を、こども家庭庁WEBページでご紹介しています。

■ご紹介事例のカテゴリと各事例
5つのカテゴリから、8つの事例をご紹介します。

<居場所づくり・こども食堂>

- ◆ラボカフェ（石川県）
- ◆子どもの居場所 Tsubame（神奈川県）
- ◆te to te〜つなんぐん家〜（鳥取県）

<インクルーシブ社会>

- ◆小児がん支援につながる商品の発売（全国）

<こども・子育て応援支援>

- ◆手ぶら登園（全国）
- ◆子育て応援車（東京都・神奈川県）

<体験型子育て応援支援>

- ◆海洋プラスチックごみ問題を学ぶプラ干狩り体験（福岡県）

<こども・若者主体のアクション>

- ◆制服リユース（三重県）

各取組の詳細な情報については、バナーをタップするとご確認いただけます。

全国各地で、様々な取組が広がっています。皆さま、ぜひご覧ください！

こどもまんなか
こども家庭庁

ホーム > 政策 > こどもまんなかアクション > こどもまんなかアクションの紹介 > 居場所づくり・こども食堂

居場所づくり・こども食堂

※写真・画像・内容については、ご承諾済みのものをこどもまんなか応援サポーターの皆様からご提供いただき、ご紹介しております。

【ラボカフェ】 NPO法人じっくらあと

掲載日：2023年9月29日
実施地域：石川県輪島市

ラボカフェとは？

「10代のこども」と「親やこどもに囲まれる大人」に向けたお茶会です。お茶会としても養育者ややるこどもお茶会、詩とふたりで話をすることもあります。あなたの居心地の良い環境で、普段では話せない心のモヤモヤについてお話ししましょう。

- ・詩とあなたのふたりで
- ・友達と一緒にでもOK
- ・話の内容は秘密にします
- ・話したいことを話しても

Global Site

注目のトピック
こども大綱の策定に向けた議論の中間整理
こどもの居場所づくりに関する指針（案）に対する意見公募

サイトポリシー
プライバシーポリシー
ウェブアクセシビリティ
Cookie/ライトポリシー SNS
ご意見・ご要望 サイトマップ

こどもまんなか
こども家庭庁

ホーム > 政策 > こどもまんなかアクション > こどもまんなかアクションの紹介 > こども・子育て応援

こども・子育て応援

※写真・画像・内容については、ご承諾済みのものをこどもまんなか応援サポーターの皆様からご提供いただき、ご紹介しております。

【手ぶら登園】 ユニ・チャーム株式会社／BABY JOB株式会社

掲載日：2023年9月29日
実施地域：全国

手ぶら登園

注目のトピック
こども大綱の策定に向けた議論の中間整理
こどもの居場所づくりに関する指針（案）に対する意見公募

Global Site

注目のトピック
こども大綱の策定に向けた議論の中間整理
こどもの居場所づくりに関する指針（案）に対する意見公募

サイトポリシー
プライバシーポリシー

■取組概要
2019年にBABYJOB株式会社との提携により、保護者と保育士双方の育児負担を軽減する「手ぶら登園」を開始しました。この取り組みは、月額定額金を支払うことで、紙おむつやおしりふきが保育施設に直接届く、サブスクリプションモデルです。



こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革（続き）

意識改革は、点（自治体）から面（地域の企業・団体ぐるみ）への広がりへ。

【札幌市の例】

こどもたちへお仕事・社会体験を提供するイベント「ミニさっぽろ」を通じて協力会社56社もいっしょに応援サポーターに参加。



こどもまんなか応援サポーター宣言をした企業・団体の皆様

アイビック食品株式会社	ALSOK（アルソック総合警備保障）	伊藤忠エネクスホームライフ北海道株式会社
岩田地崎建設株式会社	株式会社カナリヤ	株式会社札幌エネルギー供給公社
札幌丘珠空港ビル株式会社	札幌環境維持管理協会	一般財団法人札幌下水道公社
札幌こども専門学校	一般財団法人札幌市環境事業公社	一般財団法人さっぽろ産業振興財団
一般財団法人札幌産業流通振興協会（アクセスサポロ）	札幌市管工事業協同組合	公益社団法人札幌市子ども育成連合会
札幌商工会議所情報部会/北海道印刷工業組合	株式会社札幌振興公社	一般財団法人さっぽろ水道サービス協会
公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	札幌総合情報センター株式会社	一般社団法人札幌地方自動車整備振興会
札幌デザイン&テクノロジー専門学校	札幌日信電子株式会社	札幌ビューティーアート専門学校
株式会社札幌リゾート開発公社	札幌臨床検査技師会	株式会社GKI
JA北海道信連	JFEエンジニアリング株式会社北海道支店	JFEテクノス株式会社
株式会社ストロベリーコーズ	六丸株式会社	株式会社田中組
道路工業株式会社	トランスコスモス株式会社	株式会社ナカシマ薬局
日本航空株式会社	日本郵便株式会社北海道支社	株式会社ビエトロ
株式会社フィリップス・ジャパン	フクダ電子北海道販売株式会社	富士通Japan株式会社
ホクレン農業協同組合連合会	株式会社北海道アルバイト情報社	北海道エネルギー株式会社
一般社団法人北海道建築士会/一般社団法人北海道建築士事務所協会札幌支部	公益社団法人北海道作業療法士会	一般社団法人北海道歯科衛生士会
北海道自動車修理協同組合	北海道現職訓練士会	株式会社北海道新聞社
北海道製麺協同組合	北海道鉄紡業協同組合	丸美珈琲有限会社
雷印メグミルク株式会社	株式会社ロス・エンタテインメント モデル事業部モーディア	

計56社（五十音順）

【岡山県の例】

経済6団体をとりまとめてサポーターに一斉参加。県ぐるみでの「子育て応援企業」を募集し、活動を広げる。

経済6団体と「こどもまんなか応援サポーター」共同宣言を行いました。

◆ 共同宣言団体名

岡山県
岡山県経済団体連絡協議会
岡山県商工会議所連合会
岡山県経営者協会
岡山経済同友会
岡山県中小企業団体中央会
岡山県商工会連合会



「おかやま子育て応援宣言企業」を募集しています！

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム の開催

こども・子育てにやさしい社会の機運醸成のために、自治体を主体としたシンポジウムを協力して開催。こども家庭庁から職員を派遣し、各政策の説明やこども未来戦略を理解促進をはかると同時に地域での課題解決に向けた取組の紹介や意見交換を実施。

◆R5年度開催実績

・和歌山県・神奈川県・奈良県・埼玉県・北九州市・北海道・愛媛県・福山市・大分県・福井県・栃木市

【「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 埼玉 SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023 が開催されました。



こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために、「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 埼玉 SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023が令和5年11月18日(土)さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナで開催されました。埼玉県が主体となり官民連携で「たのしい子育て」を情報発信し、体験型イベント等を通して子育ての楽しさを実感してもらうとともに、子育て世代間の交流も図られました。

【知事とこどもたちのこどもまんなかパネルディスカッション～リレーシンポジウム in 埼玉～

ステージで最初に開催されたのは、「知事とこどもたちのこどもまんなかパネルディスカッション～リレーシンポジウム in 埼玉～」。公募で選ばれた小学生とその保護者2組が、大野知事とともに「埼玉県とこどもたちの未来」について様々な意見を交換しました。冒頭、こども家庭庁副大臣が「こどもまんなか」について説明すると、続いて知事が6月に「こどもまんなか応援サポーター」を宣言したことを報告。埼玉応援団を務めるタレントのじびる大木氏がサポーターに勧誘すると、子育て中のじびる大木氏も趣意に賛同しサポーターとなる宣言をしました。

パネルディスカッションでは、「埼玉県の好きなお店」としてこどもたちが「自然豊かなショッピングモールがあって買物が楽しめる」などを挙げたことを受け、知事が「埼玉県には、海以外すべてがあるところ」が県の魅力であると表現しステージを沸かせました。「埼玉県の未来」では外国人との多文化共生の重要性が多く述べられ、副大臣も自身の出身地である愛知県には「クラス半分がブラジルの小学校もある」と全国各地でグローバル化が進んでいる現状を説明。そうした中でも分け隔てなくこどもや子育てを応援する「こどもまんなか」社会の実現に向けて、誰もが協力できるこどもまんなか応援サポーターへの参加を呼びかけました。

保護者が「子育てで困ったこと」として、「休日・夜間の診療」や「専業主婦の保育園の利用」など実生活で直面した困りごとに対して、副大臣からは「こども誰でも通園制度(仮称)」の創設を目指していること、知事からは「埼玉県 AI 救急相談」サービスの紹介などが伝えられました。パネルディスカッションの最後には、副大臣と知事がこれからの日本や埼玉県を担うこどもたちへエールを送りました。



こども家庭庁の取組を発表する工藤副大臣



埼玉県の目指す未来を示す大野知事



パネルディスカッション参加者

その他にも様々な催しがステージで行われたほか、会場ではプロチームのコーチ陣による初めての親子サッカー体験や妊婦体験ベルトを装着し日常動作を体験する「妊婦体験コーナー」など多彩なプログラムに多数の来場者が参加しました。埼玉県のゆるキャラが会場内に登場する「ゆるキャラパレード～埼玉県の謎を解け～」では、多くのこどもたちが思い思いに笑顔でキャラクターと触れ合う姿が印象的でした。



【概要】名称：「SAITAMA 子育て応援フェスタ 2023」 / 内容：「パネルディスカッション」 知事、副大臣 / 会場：さいたまスーパーアリーナ / 協力：こども家庭庁 / 日程：令和5年11月18日(土) / 主催：SAITAMA 子育て応援フェスタ実行委員会

【「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北九州 産学官・地域・若者と共同で、～こどもまんなか city 宣言～が発表されました。



こどもや子育てにやさしい社会づくりを推進するために「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北九州 ～こどもまんなか city 宣言～が令和5年11月13日(月)北九州市立小倉中央小学校 体育館で開催されました。小学生や高校生、そして市内の経済団体、運動団体、保護者、地域の方々など多くの市民のみなさんが参加しました。このシンポジウムの中で、北九州市全体で地域一体となって「こどもまんなか社会」を目指すため、産学官・地域・若者と共同で、全国初となる「こどもまんなか city 宣言」が発表されました。

冒頭北九州市の武内市長より、今年7月に北九州市が「こどもまんなか応援サポーター宣言」を発表したこと、さらに市内の約80の公共施設でこどもファストトラック制度を開始したことを説明。そして今回の「こどもまんなか city 宣言」を通じて、こども・大人の垣根を越えて、北九州市のまち全体で全国のこどもまんなかアクションを引っ張っていきたいと説明しました。



北九州市の武内市長より挨拶



知事大臣からのビデオメッセージ(仮)と来賓挨拶の様子

続いて、こども政策担当大臣がビデオメッセージにて「本日のリレーシンポジウムを通じて、多くの皆さんがこども・子育てにやさしい社会づくりに参加していく機運が高まることを期待しています」と挨拶。この後、こども家庭庁加藤大臣から「こどもまんなか city 宣言」についてなど、クイズ形式を取り入れてこども達にわかりやすく説明。こども達も真剣な顔で話を聞いていました。

産学官・地域・若者と共同での「こどもまんなか city 宣言」の発表では、それぞれの代表者が具体的なアクションや取組を宣言。まず武内市長からはこどもが遊び、集い、自由に過ごせるスペースとして「こどもまんなかスペース」などの実施を発表。産を代表して北九州商工会議所の津田会頭からは「こどもまんなかワークスタイル」、学を代表して北九州市立高校の増田校長からは「生徒の未来を全力応援」などが発表されました。また地域や学生の代表者からは「食でつながる居場所づくり」や「こども・子育てを自分事として考える」などが発表され、産学官・地域・若者がまさに一体となってこどもまんなか社会の実現を目指していくことが宣言されました。



産学官・地域・若者による「こどもまんなか city 宣言」



こども大使任命式(仮)と参加者全員による写真撮影

こども大使任命式では、地元のヒーロー、キタキウマンが登場。人気者の登壇に、参加しているこども達から大きな歓声が沸きました。最後に、参加者全員での記念撮影が行われ、北九州市が目指す「こどもまんなか社会」を象徴するような、みんなの笑顔で幕を閉じました。

【概要】名称：「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in 北九州 ～こどもまんなか city 宣言～ / 場所：北九州市立小倉中央小学校 体育館 / 日程：令和5年11月13日(月) / 内容：(主催者挨拶) 北九州市長 武内和久 (基調講演) こども家庭庁副大臣 工藤たけひろ(「こどもまんなか city 宣言」) 関係者一同よりアクション宣言 (こども大使任命) キタキウマン (写真撮影) こどもをも愛した参加者全員 / 主催：北九州市 / 協力：こども家庭庁

◆R6年度は全国15か所程度の開催を予定

こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革（続き）

事務連絡
令和6年1月12日

各都道府県子育て担当課 御中
各指定都市子育て担当課 御

こども家庭庁長官官房総務課

令和6年度「こどもまんなかアクションリレーシンポジウム」の推進について（協力依頼）

平素より貴団体におかれましては、こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革の取組にご尽力いただき、厚く御礼を申し上げます。

令和5年12月22日に閣議決定された「こども未来戦略」において、「こども・子育て政策を実効あるものとするためには、行政が責任をもって取り組むことはもとより、こどもや子育て中の方々が気兼ねなく様々な制度や支援メニューを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、年齢、性別を問わず、すべての人がこどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識改革を進める必要がある」としており、こども・子育てにやさしい社会づくりのためには、こどもや子育て世帯を社会全体で支える機運を醸成する必要があります。

その取組の一つとして、昨年10月より「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同いただいた地方自治体と連携し、「こどもまんなかアクションリレーシンポジウム」を開催し、こども、子育て、働き方等様々なテーマに関する各地域の課題に対し、企業・団体、地方自治体、個人等が連携していくための様々な意見交換や先進事例紹介等を実施するとともに、こどもや子育て世帯等を地域全体で支える機運を醸成すべく、取り組んでいるところです。

企業・団体、地方自治体、個人等の取組との連携を広げていくとともに、こどもや子育て世帯を社会全体で支える機運をさらに醸成すべく、令和6年度においても地方自治体と連携して「こどもまんなかアクションリレーシンポジウム」を開催していきたいと考えております。

については、下記の通り実施費用の一部をこども家庭庁が負担する予定としていますので、貴自治体における「こどもまんなかアクションリレーシンポジウム」の開催の検討をお願い申し上げます。

なお、各都道府県におかれましては、貴管内の市区町村へ周知いただきますようお願い申し上げます。

記

負担割合：1 / 2（200万円を上限、委託費として支出）

開催概要：意見交換、先進事例紹介の実施、こども未来戦略の紹介 等

対象自治体：都道府県、市区町村

※ 希望自治体多数の場合は、調整させていただく場合があります。

上記の詳細については、担当までお問い合わせください。

（担当）
こども家庭庁長官官房総務課
TEL: 03-6771-8030

こどもまんなか応援サポーターとの取組連携

【ファミリーマート】

ファミマこども食堂に職員が参加

こども基本法を楽しく伝える！ ←

「ファミマこども食堂」に職員が参加しました。 ←

こどもたちに「こども基本法」を知ってほしい。こどもまんなか応援サポーターに参加いただいている(株)ファミリーマートのご協力を得て、「ファミマこども食堂」に職員が参加し、

こども基本法を楽しく説明するコラボレーションを行いました。こども食堂をはじめとする「こどもの居場所づくり」の支援は、こども家庭庁で推進している取組のひとつでもあります。「ファミマこども食堂」はこどもたちといっしょに食事をするだけでなく、いろいろな体験ができた、世代間交流ができた、と各地域の店舗で様々なスタイルで開催されているそうです。

会場のファミリーマート板橋ハッピーロード大山店には6歳から12歳のこども5名と保護者4名が集まりました。まず、自己紹介でアイスブレイク。つづいて、ファミリーマートでの「お仕事体験」にチャレンジしました。レジ打ちや、バーコードの読み取り、そしてバックヤードに入って在庫を確認したり、商品を補充したり「一度やってみたかったお仕事」をこどもたちが体験しました。お食事タイムは、お店で準備してくれたお食事セット3タイプの中から選んだ食事をみんなで食べます。こども家庭庁の職員もみんなといっしょにいただきます！

食事が終わったら、いよいよ「こども基本法クイズ」の時間です。クイズは3問、こども基本法が大切にしている考え方についてなどをQ×クイズで答えてもらいました。こどもも保護者も「こども基本法」そして「こどもまんなか」を身近に感じたなど、リアルな感想をうかがうこともできました。こどもたちそれぞれが描いたイラスト入りの「特製こどもまんなか缶バッジ」もいっしょに作成し、あっという間に楽しい時間がすぎました。地域とこどものつながりの大切さを強く実感できる取組となりました。



ユニフォームでお仕事体験



みんなで「いただきます！」



完成！こどもまんなか缶バッジ

【概要】名称:「ファミマこども食堂」こども家庭庁とのコラボ開催 / 場所:ファミリーマート板橋ハッピーロード大山店 / 日程:令和5年11月27日(月) / 内容:「こども基本法クイズ」「こどもまんなか缶バッジ作成」等 / 主催:株式会社ファミリーマート / 協力:こども家庭庁

【VIVISTOP博多】

こどもたちの映画作りワークショップに職員が参加

